第 5 回「歴史的記録と現代科学」研究会

北部九州の装飾古墳

Decorated tombs in northern Kyusyu

平井　正則 （月光天文台・福岡教育大学）

概要

九州北部装飾古墳の中で最も多彩な装飾をもつ王塚装飾古墳玄室の天井装飾は星の図か？の疑問に応えるために 6 世紀東アジア天文学の視点から天井装飾の調査・研究を行った。 採取した珠文分布の数値的解析から高句麗古墳真坡里 4 号墳天井天文図と類似することを見つけた。しかし、この天井装飾が天文図とする根拠は見つからなかった。そこで、この類似の理由を解くため真坡里 4 号墳天文図とは何かについての韓国研究者間の議論を整理すると、実は、高句麗古墳文化には大陸の高い天文学の下に、形成した韓半島特有の天文学に基づく葬送の様式があること分かった。

一方、原田大六著「磐井の叛乱」には古墳時代早期に刻印された石棺に始まり、石人馬人類の岩戸山古墳から 7 世紀末の竹原装飾古墳まで、北部九州の装飾古墳発生から消滅について、優れたが見解述べられている。 すなわち、九州北部の装飾古墳とは韓半島との軍事、政治、経済を通して、高い高句麗古墳文化が日本に移入したものだとする。これらの議論をふまえ、王塚装飾古墳とは高い高句麗古墳文化の強い影響下で造営された一連の装飾古墳のひとつであり、高句麗古墳文化の主流をなす考えられる韓半島特有の天文学の源流を含むことために、見出した天井珠文分布が高句麗古墳真坡里 2 号墳天井天文図と類似すると結論する。

1. 序論

北部九州に分布する装飾古墳の所在、築造年代についての簡単な整理（2.1）を行い、その代表的な王塚装飾古墳（2.2）に注目する。星座描写ではないかとの疑問からその天井装飾の調査・研究（2.3）を行い、天井の珠文（円文でなく珠文とする理由は後述）分布が同時代の高句麗古墳真坡里 4 号墳天井天文図と類似することを見つけた（2.4）。この真坡里 4 号墳天井天文画について、これまでの研究者による議論を整理すると中国天文学の強い影響のもとに韓半島特有の星座観察と方位重視の表現があるという興味ある指摘を確認した。

次に、原田大六「磐井の叛乱」の議論（3）にあるように、有明湾沿岸から飯塚、遠賀川河口、宗像に至る装飾古墳の推移と、石刻に始まり、多彩な装飾をもつ王塚装飾古墳を経て、竹原装飾古墳の死生観・世界観に至る古墳描画の変遷が韓半島の政治・軍事・経済・文化と深く関わるという見解に同意する。さらに、社会学者間では大陸からの文化移入は大局的に見て黄河文化と長江文化のふたつの源流があると議論され、実際には北部九州遺跡群は背振山系を境に南北域に対応する指摘は北部九州の装飾古墳研究に重要である

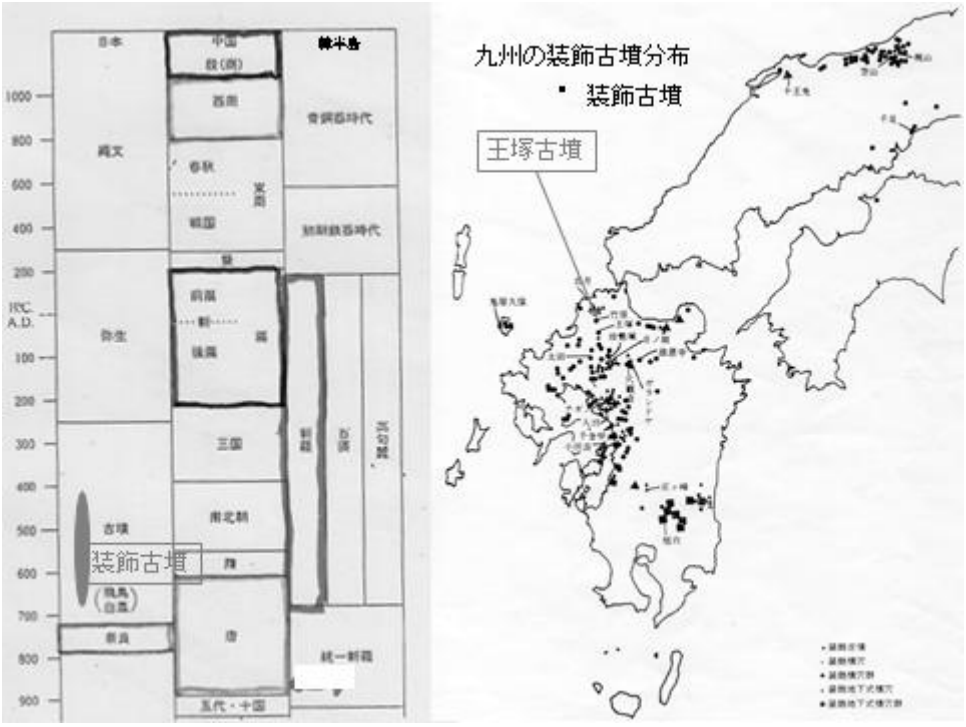
こうして、6 世紀を中心とする東アジア天文学の視点から見ると主に 5 世紀に始まり、薄葬令の施行で消滅した北部九州の装飾古墳は韓半島との軍事、政治、経済を通して高い高句麗古墳文化を受容し、その影響のもとに推移した。王塚装飾古墳天井装飾が真坡里 4 号墳天井図に類似するとは装飾古墳が高い高句麗古墳文化の強い影響下で築造された証拠だと結論する（4）。

2. 装飾古墳の調査・研究

福岡県飯塚市桂川町の王塚装飾古墳の天井装飾の調査研究を平成 12 年度（2000）福武学術文化振興財団研究助成金の支援のもとに行なった。以下は主な調査、研究とその結果である。

2.1 北部九州の装飾古墳

装飾古墳とは簡単には、古墳内部に線刻や彩色の施された壁面をもつ古墳である。装飾古墳は全国に 600 墓ほどある中で約 330 基が福岡に集中する（第1図右辺）。その築造は古墳時代の 5 世紀初頭の石人石馬類の古墳に始まり、6 世紀後半に盛んに築造され、646 年薄葬令で終わる。（第 1 図左）



第1図　九州の装飾古墳の時代と分布（熊本県立装飾古墳館 1997）

2.2 王塚装飾古墳

第 2 図は王塚装飾古墳と王塚古墳館の全景を示す。また、発見の経緯、古墳所在地、古墳発見から現在まで、大きさ、壁画内容、出土品などを主な事項が左辺にある。

王塚装飾古墳　　福岡県飯塚市桂川町
＜発見から現在まで＞
1934（昭和9年）　採土工事中発見
1935（昭和10年）京都帝国大学調査
1955（昭和30年）日下八光教授模写開始
1957（昭和32年）日下八光教授第3回模写
1994（平成6年）王塚古墳館開館

＜前方後円墳＞墳長80m,段丘上標高35m
＜横穴式石室＞石屋形あり、奥壁に石棚
＜図文の場所＞前室・後室・石屋形
＜彩色＞　　赤・黒・白・緑・黄
三角文、円文、同心円文、双脚輪状文、
ゆき、盾、大刀、弓、蕨手文、騎馬隊
＜副葬遺物＞鏡、装身具、武具、馬具、工具
円筒、朝顔形埴輪V式
＜築造＞　6世紀中葉
（1997熊本県装飾古墳)

第 2 図　王塚装飾古墳（王塚装飾古墳館 2003 など）

第 3 図　石棺内部前室の人物と騎馬、後ろ（玄）室のふたつの灯明台、石屋形
（王塚装飾古墳館）

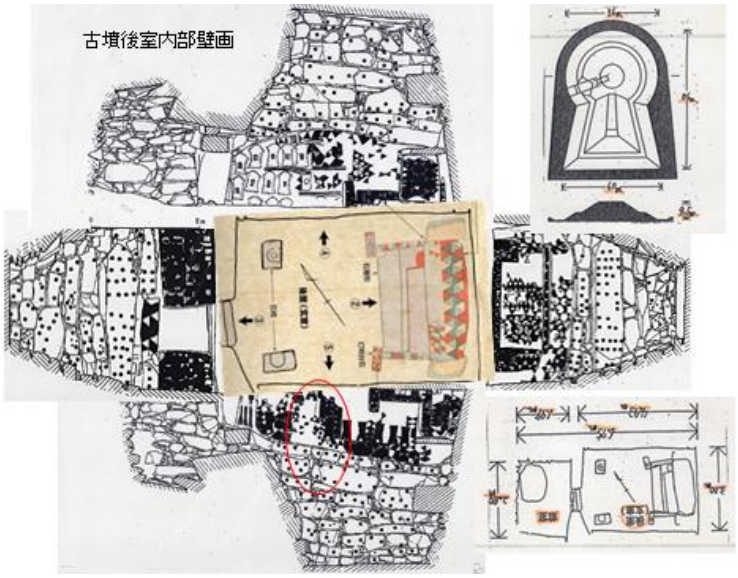
第 3 図左は前室に葬送の黒と赤の騎馬、人物、双脚輪状文、蕨手文、上部に黄色の円文があり、右図は奥（玄）室で石屋形に二体を安置する石棺と手前の二つの灯明台石、石屋形奥に三角文、円文、腰下部に盾、靭、太刀、同心円文などがあり、詳しい文様くは第 4 図に示

す。彩色は赤、黄、白、緑、青、黒の 6 色で、染料についての詳しい研究は朽津ら（2004）にある。

0

図 4　石室内部の文様の詳細（王塚装飾古墳館 2003）

前室は騎馬による葬送の姿、後（玄室）は死者の眠る黄泉の国を表すといわれる。



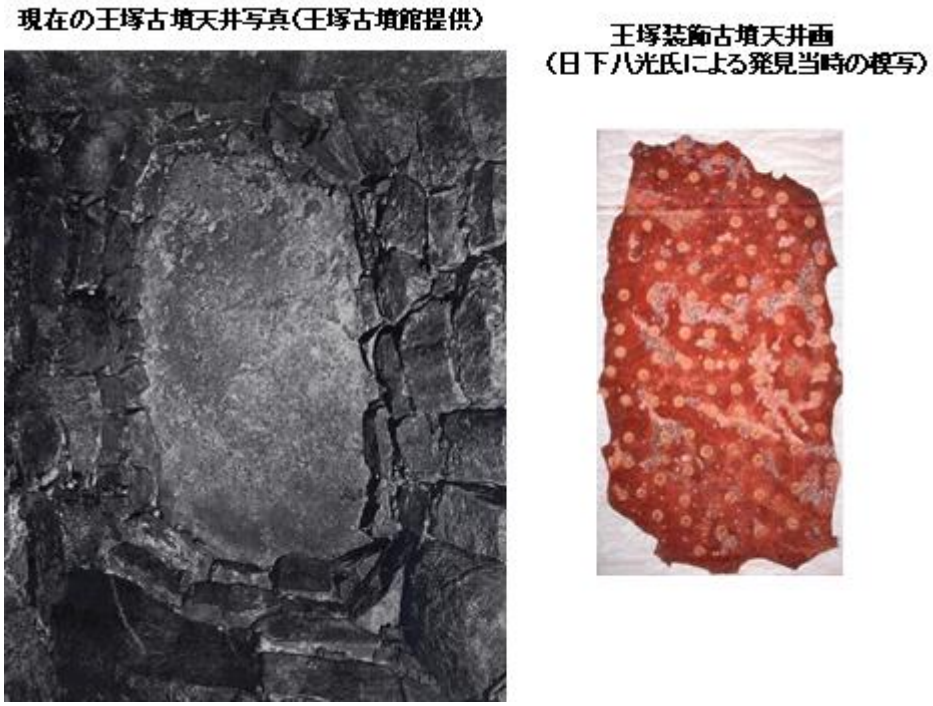
第 5 図　古墳全図と石室展開図（王塚装飾古墳館 2003）

副葬品や考古学的資料は王塚古墳館「王塚古墳のはなし」(2003)に詳しい。

2.2　天井珠文配置の調査

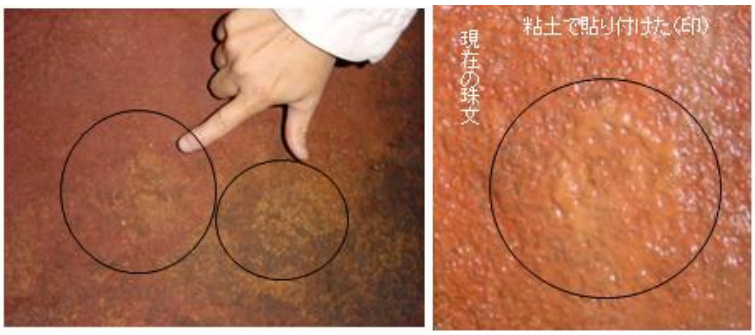
天井は一枚石板で高さ 3.7 メートル、長さ 4.43 メートル、幅 3 メートルである。

第 6 図左に古墳発見当時の天井の写真、右に日下一光氏の国立民族歴史博物館(佐倉)に現存する模写を示す。古墳石室の原寸レプリカが国立民族歴史博物館(佐倉)と王塚装飾古墳館(桂川町)にある。 しかし、天井装飾の珠文分布がレプリカと模写とは異なる。そこで古墳発見に近い時期に展示されたと聞く小林行雄氏(京大)の作成図が熊本県立装飾古墳館に移管された、福岡県教育委員会には天井図は保存されたが戦時中紛失したとか？確かめられなかった。ここでは日下氏の模写が正しいとした。



第 6 図発見当時の天井写真と模写(桂川町教育委員会 1958)

第 6 図右図の原寸の模写珠紋は大きいもの(約 75 ㎜)87 個ほかに小さいもの(約 20 ㎜)102 個ある。筋状の白い帯は天井を伝った水による汚れで、日下氏による観察の細かさが分かる。この黄色の珠文とは円形のハンコで押したような粘土の薄い盛り上がり(第 7 図)が認められる(京都帝国大学による最初の調査結果 1935)ので、壁面などの円文(塗った円)と異なる意味で珠文とした。

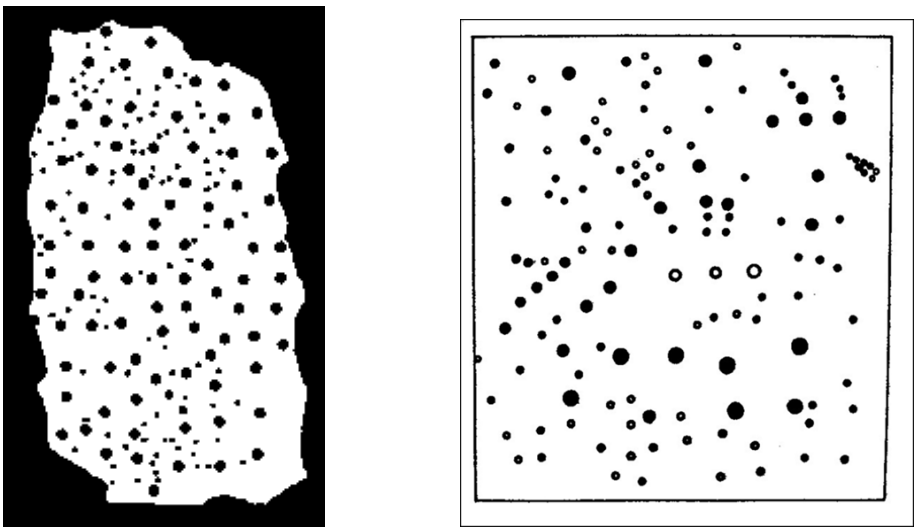


第 8 図珠文の詳細（著者撮影）

2.3　調査結果と同定

これから大きい珠文の分布を簡単な数学的解析を行った結果、6 世紀高句麗古墳群のひとつ真坡里 4 号墳天井天文図と類似すると結論した（平井　2002）。しかし、真坡里 4 号天井図はほぼ正方形（縦横比は 6:5）、円の大円の北斗七星や中、小円によるおうし座（おうしの顔部分にあたる）星座が判定できる。一方、王塚装飾古墳の天井装飾は長方形で枠がないが、天井から連続的に壁面（積石）に多数の黄色の円文が続いていて、ひとつの積石にほぼ 4 から 10 個ていどの円文があり、たとえば、前室上部横に並ぶ円文（第 3 図左上辺）などは無作為な円文の装飾に見える。天井珠文分布は単なる装飾で、格子交点に無作為に珠文を並べた！　まるで、現在の陶工が絵付けの際、自在に任意の格子点に円を打ったようにも考えられる。

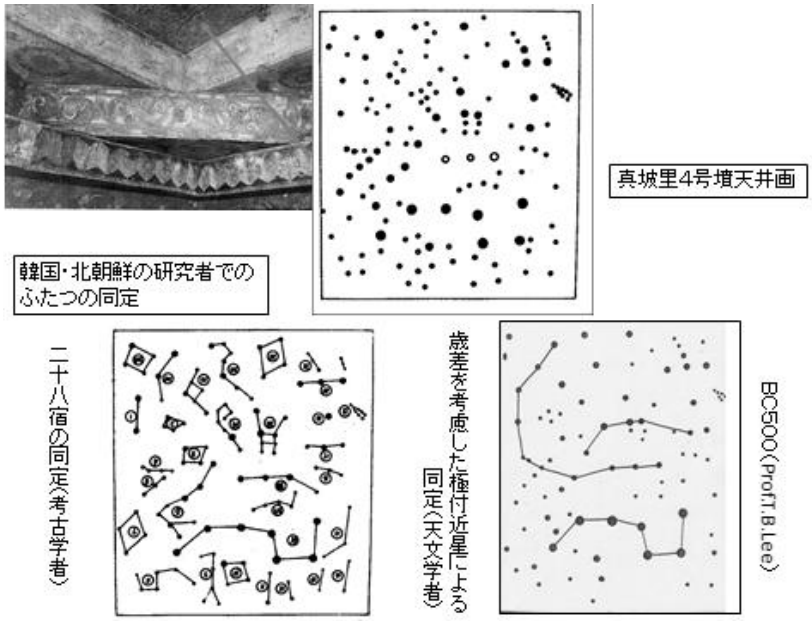
しかし、天井の珠文配置は有意と仮定して、同時代の天文図を選んで数値的比較を行ったところ、真坡里 4 号墳天文図に酷似するという結論を得た。ただし、両図ともに星座位置や天の赤道、黄道などの座標を示すものはない。しかし、真坡里 4 号墳天井天文画には円文の大きさに違いがあり、北斗七星やおうし座の判別できる。（第 9 図）



第 9 図王塚古墳天井と真坡里 4 号墳天井画の類似

ただし、天井ではなく南西壁腰部から下部へ白い 5 個の円文が見える（第 5 図）が意味は不明である。

天井珠文が四壁上辺の円文と繋がるように見えるので玄室の適当な点からレーザー機器珠文、円文の方位を測定し、立体的な分布を明らかにする必要があるかも知れない。天文学としては天の星を描くには座標系（天の赤道とか黄道とか）に関するものが必須である。 しかし、両者にはそれらはみつからないし、北天の星夜描写なら周極星の概念を示す根拠が古墳のどこかにあるはずであるが見つからない。



第 10　真坡里 4 号墳の同定に関する二つの説

2.4　高句麗真坡里 4 号墳天井天文図についての諸考察

真坡里 4 号墳天井画（第 10 図上辺）の解釈について、韓国考古学者と天文学者ではそれぞれ次の二つの同定（第 10 図下辺）がある。

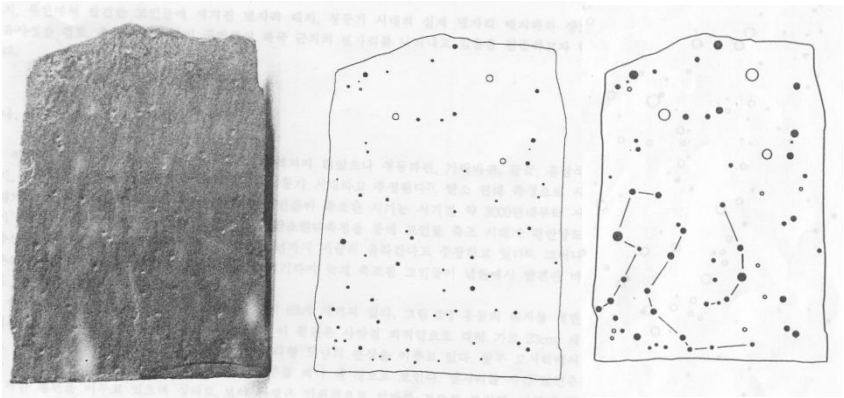
（1）　二十八宿星図説

韓国考古学者の朱（1972）は中国の高い天文学（特に暦術）で重要視される二十八宿星座を装飾したものとした。（第 10 図左下）

（2）北極付近星図説

天井図は紀元前 500 年の歳差補正を施した北極星近くの星図と良く一致し、第 10 図右下の同定と結論する。根拠は韓半島青銅器時代（紀元前 5 世紀から 4 世紀）の韓国アデキ村で発見された支石墓蓋石（第 11 図左、中央）の穴の配置は支石墓作

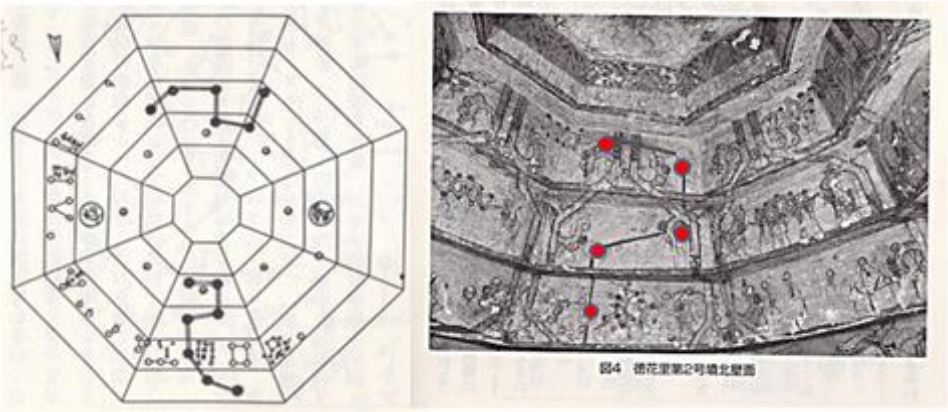
成の紀元前 500 年ほどの歳差補正を行った北天の星の配置（第 11 図右辺）と同定できると提案する。



第 11 図　アデキ村石刻図　写真、模写、同定（Park,C.B. 2001）

北天を描くのは周極星の概念がすでにあった！（確かにギリシャ神話には周極星の概念が見られるから時代的矛盾はない。） 韓半島には青銅器時代より周極星の認識や第 11 図中央の模写に見られるように明るさにより大きさの異なる星の観察に基づく（穴のサイズ異なる）石刻があり、葬送の際支石墓蓋石に刻印する様式があったとする。実際、現在のソウル近郊、百済時代とされる遺跡に穴をもつ墓石や穴で覆われた亀石があることを著者は実際の調査、確認した。

また、第 14 図に高句麗古墳群の中の角抵塚天井図、徳花里2号の墓室壁面の斗七星、古墳分布を示す。明らかに、王塚装飾古墳玄室装飾と星を描いた高句麗古墳装飾の様式は異なる。



第 14 図　高句麗古墳の北斗七星（1966）

金一権（1996）は高句麗古墳群の壁画には主に北斗七星やさそり座が同定できて、さらに、「方位標識星座」と呼ぶべき観念を述べ、墓室の向きを重視する星座が描かれたと述べる。やがて、古墳壁面に壮大な四象（方位）を描く江西大墓に至ると議論した。

こうして、紀元前から大陸の高い天文学の影響の下に、韓半島に特有な天の観察法や表現などの天文学が継承され、高句麗古墳文化に含まれたと結論する

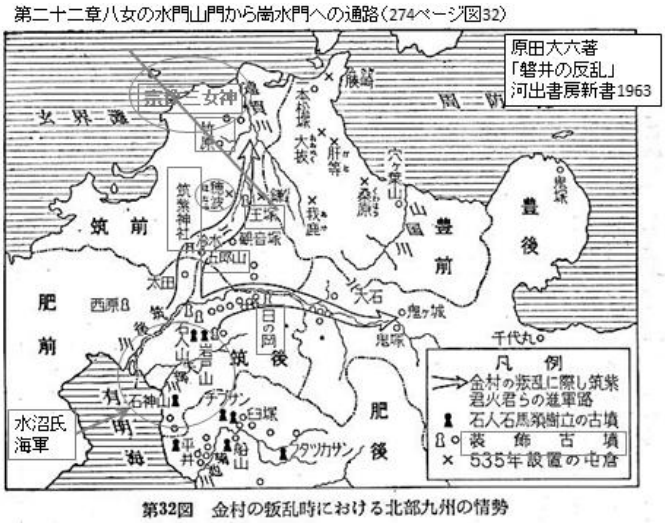
さらに、古い時代から韓半島に特有な天測と表現とか描画とそれによる葬送様式があったとすれば東アジア天文学への興味ある次の提案がみつかる。

近年、平井、藤原（2009）による「分度之規矩」の原図研究や最新の中村（2017）の二十八宿星による数値的結果によればキトラ天井天文図、紀元前 80 年（±40）、石氏星経、紀元前 54 年（±11）、天象列次分野之図、紀元前 66 年±15 の観測図になる。良く知られた「天象列次分野之図」の石刻板が 668 年唐、新羅の連合軍による高句麗消滅の際大同江に沈んだという記録などを考慮すれば 6 世紀前にこれらの天文図に共通した“観測”図が大陸か韓半島に存在したのではと提案する。

次に、九州北部の装飾古墳の発生から消滅までに興味ある説を議論する。

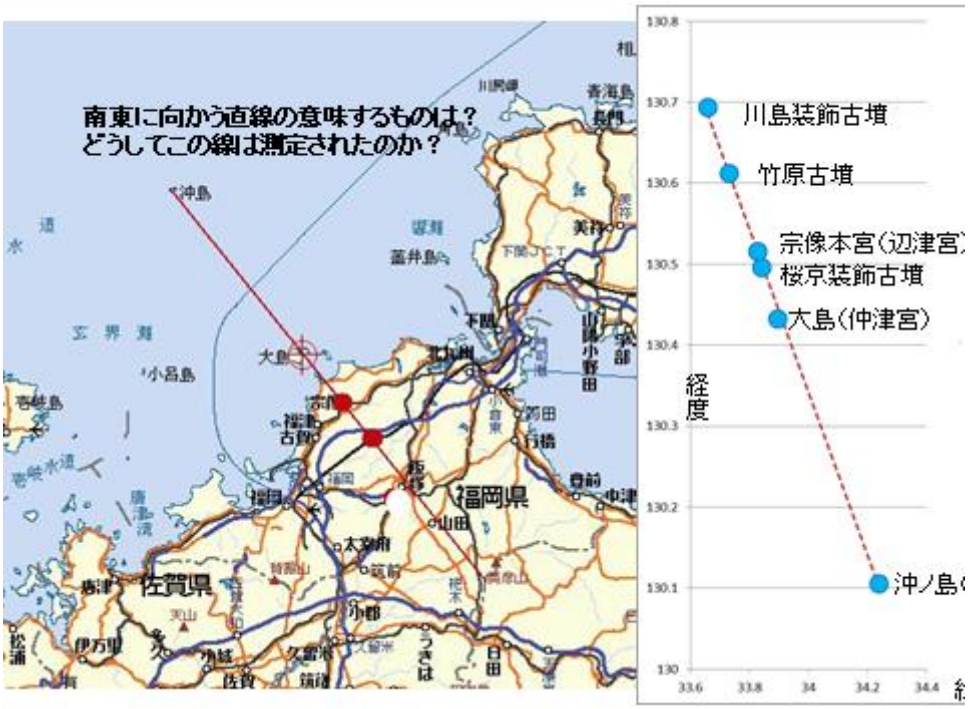
3. 原田大六の装飾古墳の変遷

考古学者原田大六著「磐井の叛乱」に、北部九州装飾古墳列の推移に関する興味ある議論がある。451 年雄略天皇の親政には有明湾沿岸の水沼（みぬま）君などの諸豪族主体の中央海軍が多大な成果をあげた。ところが 507 年頃継体天皇時代には大伴金村による近視眼的南鮮政策の失敗が起こり、新羅の侵犯を許し、任那滅亡の危機に瀕した。日本政府は新羅出兵を決意、雄略天皇時代以来功績のあった日本海軍たる磐井軍と継体天皇中央陸軍物部麁鹿火等と激突、527 年磐井の乱となった。



第 15 図　装飾古墳推移の原田大六説

原田は雄略天皇時代からの大陸の高い外来文化の影響を受け続けた有明湾岸諸豪族には石人石馬類の岩戸山古墳など石の文化を取り入れ装飾古墳が始まった。磐井の乱で有明湾沿岸から筑紫君、火君など九州豪族軍は大伴金村軍を追撃、その戦線に沿って、日ノ岡古墳、珍敷古墳、五郎丸古墳、王塚装飾古墳、竹原古墳と一連の装飾古墳が見つかる。こうして装飾古墳の展開は有明湾沿岸から嘉穂街道、飯塚、遠賀川河口岡垣町へ向かい、磐井の乱に深く関係していると指摘する。古墳時代中期雄略天皇時代からの韓半島侵略に貢献したのは諸豪族は敵対する韓半島三国の高い文化に接し、特に、高句麗古墳文化に畏敬の念をさえもったと原田は主張する。

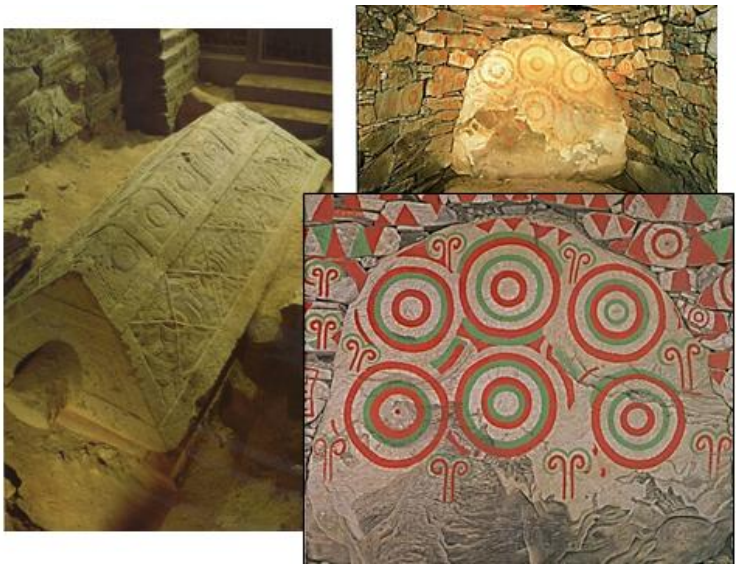


第 16 図　海北道に続く陸の回廊（古墳の直列配置）

実際、宗像三女神に連なる装飾古墳の直列配置（平井　2016）を示し、原田説の地理的根拠を実証するとともに、6 世紀東アジア天文学の韓半島特有の天測技術を議論した。

原田は議論では古墳時代前期珍重された方格神獣鏡には中国神仙思想に基づくシンボルとして天（円）、地（方格）が描かれ、方位に伴う四獣があり、これが装飾古墳の円文、や四象の原点にあると論ずる。韓半島の高い古墳文化に接した北部九州の豪族軍は石人石馬類の装飾古墳を建造、第 18 図左の石刻棺（岩戸山古墳）、左の鏡を模した大き

な中心円文や不明の双極輪状文の日の岡古墳、第 19 図の左下の船、日、月、星、人の五郎山古墳、日、月、人、蟾蜍（せんじょ）による葬送の姿の珍敷古墳、右上の前室の四象、玄室の騎馬、人、船の竹原古墳へと発展する。



第 18 図　石人山古墳と日の岡古墳

第 19 図五郎山古墳、珍敷古墳と竹原古墳入口、玄室

7 世紀後半築造の竹原古墳には、入口の四象、奥室中央の“さしば”、船、波浪、龍などが描かれ外洋を往来する海人と思われる描写がある。

高句麗古墳に見ない装飾古墳の葬送の様式にある騎馬や（外洋）船の装飾は日本特有のものであり、平井、古屋（2005）は日本特有の大陸と隔てられた海の環境について、大陸から日本への 6 世紀を中心とする北部九州の文化の源流は騎馬民族に代表される

黄河文化と南側遼東半島やもっと南から農耕を中心とする定住生活で暦の有効な長江文化とに整理され、北部九州の背振山系を境として北と南に分かれると議論した。

この見方だと王塚装飾古墳は武具、騎馬、人物、円文は黄河文化に依存する形象であり、黄河文化による主に占術の重きを置く騎馬民族に近い、高句麗文化の影響をもつと考えられる。しかし、地下玄室を創り、内部壁黄多彩な色の描画はインドネシアなど南アジアに似たような民族儀式があるという研究者もいる。

4 結論

桂川町（福岡県飯塚市）王塚装飾古墳は北部九州の装飾古墳のなかで最も多彩な装飾をもつ石室で知られる。540 年頃築造のこの前方後円墳玄室の天井装飾は星を描いるか？を検討するための調査を行い、6 世紀東アジア天文学の視点から考えた。その結果次のような結論に達した。

（1）改めて古墳発見時、日下八光氏による天井装飾、壁画の実寸模写、現在の玄室天井の観察から一枚石板に黄色の粘土による珠文の分布を明らかにした。

（2）調査結果の珠文分布は同時代の高句麗古墳群のひとつ真坡里 2 号墳天井天文図との類似を数値的解析から示した。しかし、この天井装飾調査結果から直接的な天文図のもつべき座標系、星宿などの明確な根拠は見いだせなかった、しかし、天井装飾の石室壁への広がりや発見された高句麗古墳天井画との類似から、北部九州の装飾古墳の全体的省察が必要となった。

（3）類似するこの真坡里 2 号墳天井天文図に解釈に中国天文学の伝統である二十八宿星図と周極星星図というふたつの説がある。後者は大陸の高い中国天文学の神仙思想や死生観の影響があるとはいえ、紀元前から受け継がれた韓半島特有の天文学とその様式興り、天文図が高い高句麗古墳文化の主要部分を占めるとする。

（4）ここに、原田大六著「磐井の叛乱」に北部九州の装飾古墳の発生から消滅までの推移が論じられ、敵対する韓半島、主に高句麗政治、軍事、経済、文化を通して、高い高句麗古墳文化への（主に）北部九州豪族の深い敬意と憧憬が装飾古墳築城を齎したという議論に同意する。

（5）高句麗古墳文化の中心は韓半島特有の天文学に特徴付けられ、北部九州の装飾古墳は石馬石人類を含む石棺石刻に始まり、騎馬、船による葬送の様式から玄室装飾への死生観を示す竹原装飾古墳まで特有の装飾古墳文化の源流に 6 世紀東アジアの高い天文学が移入した。王塚装飾古墳築城者には高句麗古墳文化の主軸である天文図への憧憬がかかわったと結論する。

《謝辞》

王塚装飾古墳調査、研究にあたり、ご支援を頂いた王塚装飾古墳館（桂川教育委員会）学芸員長谷川清之氏に心から感謝申し上げる。論文著者は天文学の研究者であり、考古学分野の知見が不足する中で、彼のアドバイス、ご支援がなければこれほどの資料を得ることはできなかった。また、元ソウル教育大学 Y.B.Lee..教授には歳差補正した星座図データの提供、石刻墓石観察の支援や興味ある議論を得た。なお、この王塚装飾古墳研究は平成 12 年度福武学術文化振興財団研究助成金に基づいている。

《参考文献》

朱　栄憲「高句麗の壁画古墳（永島日軍臣慎訳）」（学生社 1972）

金一権「高句麗壁画の星座図の考定」（金井塚良一訳）研究紀要 3 山武考古学研究所（1998）

朽津信明、中牟田義博、三木孝 「考古学と自然科学」,第 46 号 pp.55-66（2004）

Nakamura,T　“The History of World Calendars and Calendar-Making,”
,p165,ed.by Nah,I　(Yonsei Univ. 2017)

西谷　正 「朝鮮半島の壁画古墳と王塚古墳」p.21（王塚装飾古墳館冊子 1988）

原田大六　p88,p214,「磐井の叛乱」（河出書房 1963）

平井正則　福岡教育大学紀要,第５２号、pp.43,48（2003）

平井正則・古屋栄　福岡教育大学紀要,第５４号 pp.23.30（2005）

平井正則・藤原智子，第 3 号,p93,“文明研究・九州”比較文明学会九州支部（2009）

平井正則 「対馬海峡と宗像の古墳文化」pp.102,118 “対馬海峡と宗像の古墳文化”
安田喜憲、西谷　正編（雄山閣 216）

Park,C.B.,.Lee,Y.B.&Lee,Y.S(,プレプリント)
“A Stone Star Chart Found From A Dolmen At　Aldeugi in Cheongrwon”（2001）

注）主な図版について

「朝鮮遺跡遺物図鑑」6 巻高句麗編 3、4（壁画墳）」（東光出版 1990）

熊本県立装飾古墳館(1997)「福岡県の装飾古墳」
珍塚古墳 p32，日岡古墳 p38、五郎山古墳 p57、竹原古墳 p67

王塚装飾古墳館(2003)「王塚古墳のはなし」②、③、⑨、㉜ページ